

看護大通信

49



新潟県立看護大学

Simon Elderton 助教

英語の“communicate”（伝達する）と“community”（地域社会）は両方とも「共通・公の一般的なみんなまでまは多くの人と共有する」という意味の“communis”というラテン語からきています。コミュニケーションによって、情報・画像・考え・予想・思い・出・忠告・感情などさまざまなことが共有できます。私たちはコミュニケーションを行うとき、意識しているか否かに関わらず目標を持っているます。例えば、子どもが学校から帰ってきて「お父さん、今日ね、学校でこんなことあったんだよ」と、その日学校であった出来事を話すことがあります。

対話の重要性

す。この場合、子どもの話の目標は情報交換よりも父親と話したいという場合があります。日常でのコミュニケーションの目標の中には、このように人と関わること、または教育すること、組織すること、情報を得ることなどがあります。私たちはこれらの目標を達成するためにコミュニケーションをとるのです。

現在の通信方法によって距離と即時性が可能になったため、いつでも、どこでも、誰にでも、何でも言える手段ができました。ということは、どこにいてもコミュニケーションの目標をすばやく達成でき、次の目

標へと進んでいけるということですが、ここで忘れられてしまうのが、本来のコミュニケーションの意味です。それは、仕事を早く済ませることでなく、話を共有することです。そのために会話をし、地域社会を作っていきます。人間は孤立を感じないためお互いに話を共有することが必要です。携帯電話を持ち歩いているけれども話ができるので孤立しないと思う人もいるでしょう。しかし、伝達手段があるといつても実際にコミュニケーションをとっているとはいえません。通信ネットワークに接続するだけでなく、人々が向かい合って接する時間をとることが私たちには必要です。それによって、個人的に回答し理解を示し私たちが地域社会の一員であるという意識を得ることができるはずで

日本では少ない言葉で多くを語ることが時には美と思われます。俳句がそのよい例です。しかし、普段の生活では決まった形より自由な形での表現のほうが簡単です。日本語には敬語の段階がいくつもあります。また、場面によって決まった言い方というものもあるでしょう。これは、日本の文化であり言語に敏感なところは高く評価すべきだと思います。しかし、コミュニケーションは文化以前に存在していました。コミュニケーションなしでは社会は存在しないし、社会なしでは文化は存在しません。私たちは、形にこだわらずに気軽にコミュニケーションをとることが必要だと思います。話を共有すること、つまり、時間をかけて人の話を聞き応答することが、共に生活をすすめる基盤を作るということを認識すべきだと考えています。